

# ちよつとい話

## ～ 白 道 ～

平成19年4月6日、月の修行会にて、念仏ねんぶつ一会いちえの勤行ごんしゅを厳修致しました。浄土宗祖法然上人様は7日が誕生日です、一日早く法然上人と御本尊様に念仏を45分間称え報恩を感謝申し上げました。勤行中に私の脳裏に「白色」についてひらめきを頂きました。すでにご存知の方も見えるとは思いますが説明いたします。私達が御供物の下に敷く白紙について、白は汚れ無き心と身を表現する物であるそうです。即ち、白紙を敷くと言う事は只今、私は心身を清め最上の御供物を献上しました。と言う表現なのです。佛様にも白のつく物があります。皆様佛様を拝むと眉間みけんにイボの様な突起した物があるのに気が付いて見えると思います。それを白毫びやくごうと呼んでいます。白毫とは毛の固まりですが、雪よりも白く柔らかいと言われていています。私達はこの白毫を拝む事によって阿弥陀様の全ての相を観る事が出来る様になるそうです。そして白色びやくしきには白光びやくこうを放すそうです。この阿弥陀様の白光に照らされて極楽往生できたらと思います。我々は亡くなると白さらの晒し木綿いんどうに身を包み引導を聞く事になります。此の白は娑婆の生活で付いた煩惱の色香を捨てて産れたばかりの赤子の様に清浄無垢の姿に帰り次の世に再び産れて行く為の白です。我々は住職の引導に従って東から西の極楽に向かって行くと二つの河びやくどうに挟まれた白道に出ます。白道の先には極楽世界があり、

城主阿弥陀様が鎮座してみえます。白道の道幅は90センチとも、もっと狭いとも言われております。道の南側は火の海、北側は荒海その中心に白道があります。進もうとしても恐ろしさのあまり足がすくむのも当然です。しかし極楽に行くにはこの道しかないのです。そこで大切なのは死してこの世に未練を残さず、葬儀式にはしろしょうぞく白装束に身を包み手に杖を持ち住職の引導をしっかりと聞き、引導に従って白道を突き進むしかありません。

白道とは即ち清浄の道であり、**清浄無垢の者しか通行する事が出来ない道なのです**。死に臨んでもまだ清浄無垢になれない者は猛火、荒波にのまれ**浮幽霊**となってしまう。人として生を受ければ何を如何しようと必ず死にます。しかしながら極楽に向かう葬儀式も簡略化された結果、現在は浮幽霊がとて多くなり、この浮かばれない諸霊が色々奇奇怪怪の現象を起こしてしまうのではないかと思っています。法然上人は父親を戦いくさで亡くし、親の霊を慰め成仏させる為に25年間も比叡の山中にて修行され、浄土念仏を称えれば救える事を発見されました。法然上人は偏ひとえに「**汚れ汚れた我が身の色を白く清浄の身に変える事が出来るのは念仏しかない、俗人はお念仏を称える事に縁ほつがんもんってしか清浄無垢に成れない**」と言う事を**発願文**として残されました。即ち、分かり易く言うと、お念仏は目に見えない此の身に付いた煩惱、垢を消してくれる「消しゴム」なのです。念佛は真まことに有難い妙薬、口に忘れれば「身口意しんく い」とてにがも苦くなります。

念佛威力皆消滅 命終決定生極楽

善入院油掛地藏尊